

[引受保険会社]

# Global Partner/Net VA

グローバルパートナー/Net VA



〒108-8020 東京都港区白金1 17 3

\* Global Partnerおよび Net VA は、弊社変額個人年金保険の販売名称です。

## 2012年度 (2012年4月～2013年3月) 特別勘定の現況

### 決算のお知らせ

### ご契約者の皆様へ

日ごろは格別のお引き立てを頂き、誠に有り難く御礼申し上げます。  
さて、弊社は去る3月31日に決算を迎えましたので、ここに特別勘定の運用状況をご報告申し上げます。  
今後とも何卒ご愛顧の程よろしくお願い申し上げます。

[利用する投資信託の委託会社]

#### アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社



アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社は、マルチ・エキスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

#### アライアンス・バーンスタイン\* / アライアンス・バーンスタイン株式会社



アライアンス・バーンスタイン株式会社は、米国ニューヨークに本社を置くアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーを中核とするアライアンス・バーンスタイン\*の日本拠点です。アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーは1971年の設立以来、資産運用会社として長年にわたる歴史を有し、世界各国の主要都市に業務展開を行い、個人投資家や富裕層、機関投資家向けに投資信託や年金運用等の投資サービスを提供しています。業界最大級のグローバルな調査体制を擁する世界有数の運用会社として、グロース株式、バリュー株式、債券、ブレンド戦略など、幅広い資産運用サービスや商品を提供しています。

\*アライアンス・バーンスタインには、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。

- ・ アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・ 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・ 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・ 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・ 商品内容の詳細については「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)(\*)」、「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- ・ 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

\* 金融商品取引法の2007年9月30日完全施行により配布を開始しております。

# 変額個人年金保険 特別勘定の現況

(2012年4月～2013年3月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知ください。
- ・本ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

## 運用環境 [ 2012年4月～2013年3月 ]

### 【日本株式市場】

日本株式市場は、大きく上昇しました。TOPIX(東証株価指数)は前期末比21.11%上昇の1,034.71ポイント(前期末は854.35ポイント)で終了しました。欧州債務問題の懸念などから下落して始まり、6月にはギリシャの再選挙結果などを迎え上昇に転じましたが、揉みあう展開が続きました。11月以降は、衆議院選挙後の新政権による大型景気対策や日銀への金融緩和と圧力などから反転し、大幅に上昇しました。1月以降は、キプロス救済を巡るユーロ圏の混乱などから揉み合う局面もありましたが、政府の大規模な緊急経済対策や円安の進行、日銀正副総裁人事の同意などを受け金融緩和期待が高まったことなどから上昇して、今期を終えました。業種別(東証33業種)では、新政権のデフレ脱却策への期待から「不動産業」(前期末比+73.42%)が最も上昇した一方、大型増資やボーイング787の運航停止等が嫌気された「空運業」(同 25.38%)が最も下落しました。

### 【外国株式市場】

米国株式市場は、上昇しました。NYダウは前期末比+10.34%上昇の14,578.54ドル(前期末は13,212.04ドル)で終了しました。欧州債務問題の懸念などにより下落した後、9月頃までは追加金融緩和の期待やFOMC(米連邦公開市場委員会)の量的緩和策の決定などから上昇基調で推移しました。11月中旬頃までは、IMF(国際通貨基金)の世界経済見通しの下方修正などにより下落基調で推移しましたが、1月には「財政の崖」問題が回避されたことなどにより上昇し、その後も良好な経済指標などから上昇基調で推移しました。欧州株式市場は、上昇しました。欧州債務問題を巡る進退や良好な経済指標などを背景に、概ね米国株式市場と同様の動きとなりました。市場別騰落率は、英FT100は前期末比+11.15%上昇、仏CAC40は同+8.98%上昇、独DAXは同+12.21%上昇となりました。

### 【日本債券市場】

日本債券市場は、大幅に金利が低下しました。新発10年国債利回りは0.56%となりました(前期末は0.99%)。8月に国内消費税増税法案を巡る政局の混乱などから金利は上昇(価格は下落)する局面もありましたが、欧州債務問題などによる世界的なリスク回避姿勢などから金利は低下基調(価格は上昇)で推移しました。12月中旬以降は、大規模な財政出動による国債増発懸念などから金利は上昇に転じましたが、1月以降は金融緩和期待の高まりや、キプロス救済を巡るユーロ圏の混乱などから、金利は大幅に低下しました。日銀は、政策金利である無担保コール翌日物金利の誘導目標を年0.0%～0.1%程度で推移するよう金融市場調整を行いました。無担保コール(翌日物)は0.1%程度の水準で推移しました。

### 【外国債券市場】

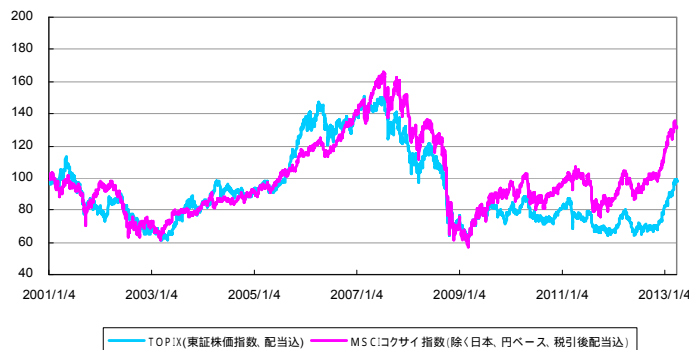
米国債券市場は、金利が低下しました。米10年国債利回りは1.85%となりました(前期末は2.21%)。7月にかけて欧州債務問題への懸念などから金利は低下基調(価格は上昇)で推移した後、良好な経済指標などから金利は上昇(価格は下落)する一方、追加金融緩和と観測などから金利は低下するなど、今期後半は揉み合いながらも上昇基調で推移しました。欧州債券市場は、金利が低下しました。独10年国債利回りは1.29%となりました(前期末は1.79%)。欧州債務問題を巡るECB(欧州中央銀行)やユーロ圏各国当局の政策対応などから、今期を通して金利は揉み合いながら推移しました。FRBは、FF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標を据え置き、年0.00%～0.25%を維持しました。ECBは7月に政策金利を0.25%引き下げ、年0.75%としました。

### 【外国為替市場】

外国為替市場は、円高基調で推移した後、今期後半にかけ円安が加速しました。米ドル/円相場は、前期末比11円86銭(14.43%)円安ドル高の1ドル=94円05銭となりました。今期前半は、欧州債務問題への懸念などから円高基調で推移しました。今期後半は、「財政の崖」問題が回避されたことや、衆議院選挙後の新政権のもとで日銀に対する金融緩和と圧力が一段と高まるなどの思惑、加えて日銀総裁の早期辞任により金融緩和が前倒しで実施されるとの観測などから円安が加速しました。ユーロ/円相場は、前期末比10円93銭(9.95%)円安ユーロ高の1ユーロ=120円73銭となりました。今期前半は、ECBによる政策対応への期待などから円安が進行する局面もありましたが、欧州債務問題への懸念などから円高基調で推移しました。今期後半は、キプロス救済を巡るユーロ圏の混乱などから円高となる局面もありましたが、ギリシャ支援協議の合意や日銀に対する金融緩和と圧力が高まるなどの思惑などから円安が加速しました。

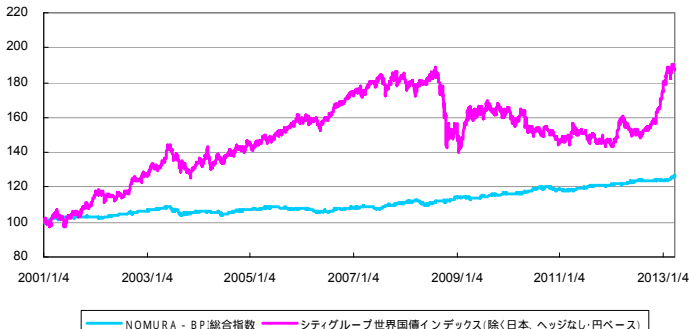
### 日本と外国の株式市場の推移

\*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

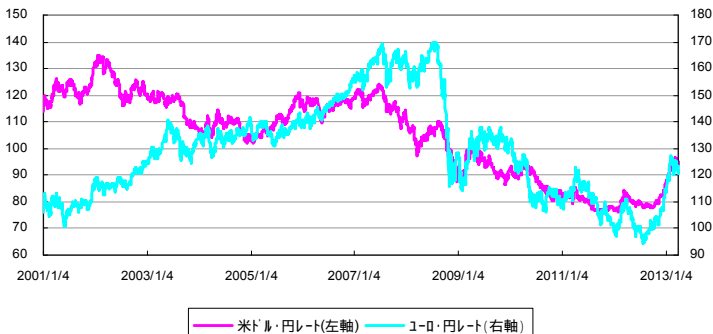


### 日本と外国の債券市場の推移

\*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



### 外国為替市場の推移



出所: 株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

### 【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

# 変額個人年金保険 特別勘定の現況

(2012年4月～2013年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

## 特別勘定の種類と運用方針について

特別勘定名	基本資産 配分比率	運用方針	利用する投資信託	
			投資信託名	委託会社
ライフ・ソリューション30	株式 30%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の30%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型(B) 適格機関投資家私募	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
	債券 70%			
ライフ・ソリューション50	株式 50%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の50%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型(B) 適格機関投資家私募	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
	債券 50%			
ライフ・ソリューション70	株式 70%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の70%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型(B) 適格機関投資家私募	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
	債券 30%			
日本株式	日本株式 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。	アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B) 適格機関投資家私募	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
世界株式	世界株式 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国(日本を含む)の株式を投資対象に成長の可能性が高いと判断される「セクター」の中から、成長性が高いと思われる銘柄に投資し、信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズH(為替ヘッジあり)	アライアンス・バーンスタイン株式会社
世界債券(注)	世界債券 100%	主として多種通貨建の投資適格格付確定利付証券に投資し、利息、配当収益、割引債券における償還差益および元本の変動等をもって、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ポートフォリオ(クラスS1受益証券)	アライアンス・バーンスタイン・エル・ビー
マネー・プール	短期金融資産 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保をめざします。	アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド(B) 適格機関投資家私募	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

特別勘定の種類、運用方針および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

(注) 当特別勘定で利用する投資信託の運用方針が変更されたため、2012年12月14日付けで、運用方針が同じであり、また運用関係費が従来より低い下記の投資信託に変更いたしました。

	変更前	変更後
投資信託	アライアンス・バーンスタイン - グローバル・ボンド・ポートフォリオ(クラス受益証券)	アライアンス・バーンスタイン - グローバル・ボンド・ポートフォリオ(クラスS1受益証券)
運用関係費(管理報酬等)	年率0.650%程度	年率0.460%程度

### 【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

# 変額個人年金保険 特別勘定の現況

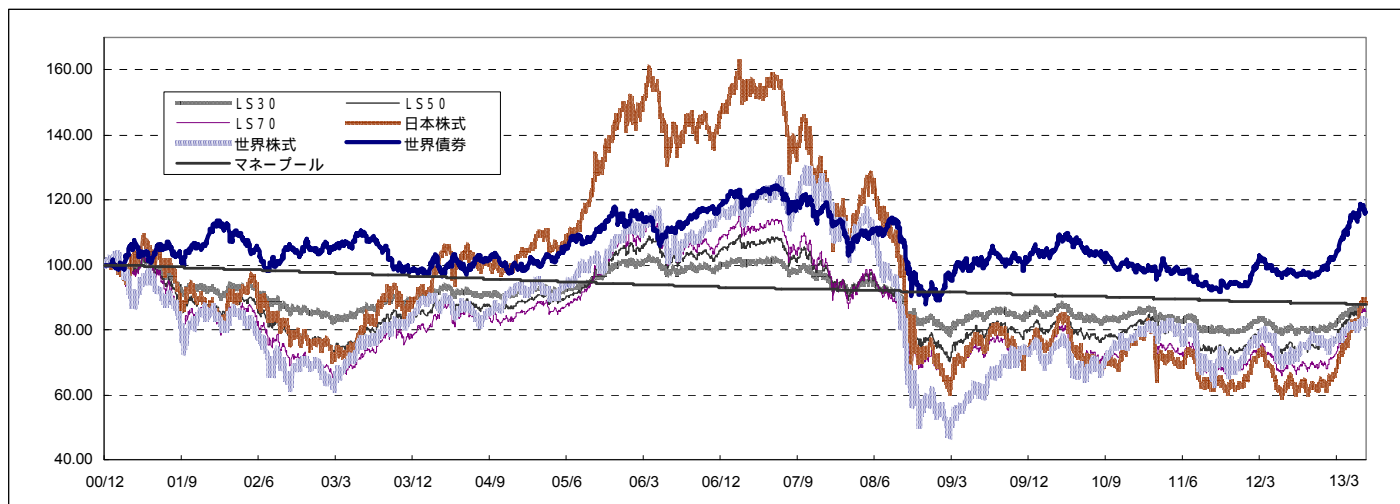
(2012年4月～2013年3月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

## 特別勘定の運用状況 [2013年3月 末日現在]

### 特別勘定のユニットプライスの推移

特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



### 特別勘定資産の内訳

特別勘定名	資産残高
	金額(千円)
ライフ・ソリューション30	2,785,953
ライフ・ソリューション50	6,227,607
ライフ・ソリューション70	3,705,492
日本株式	3,815,477
世界株式	2,314,749
世界債券	2,520,110
マネーブール	344,025

金額の単位未満は切捨てとしました。

#### 【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

# 変額個人年金保険 特別勘定の現況

(2012年4月～2013年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

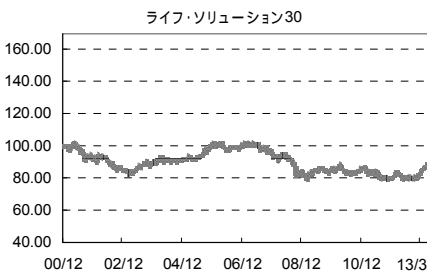
## 特別勘定 ライフ・ソリューション30 [2013年3月 末日現在]

### 特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2012年度のユニットプライスの騰落率は+6.01%となりました。  
当期前半は、ギリシャのユーロ離脱の可能性やスペイン銀行の格下げなど、欧州債務問題が再燃したこと等を背景に世界的な景気低迷となりましたが、6月の再選挙でギリシャのユーロ離脱はひとまず回避され、また欧州安定メカニズム(ESM)の支援の合意などを受け市場の緊張は緩和しました。日本では、11月の政権交代による安倍内閣の発足以降、株式市場は上昇、円安が進行しました。2013年に入り、米国では「財政の崖」がもたらす歳出削減や増税が回避されたことに加え雇用統計をはじめとする米国経済指標に改善がみられ、期末比でみると各国株式市場は上昇しました。利用する投資信託は、資産配分効果および銘柄選択の双方が奏功し、特に上昇した日本株式ファンドへの配分と銘柄選択がその牽引役となりました。今後も引き続き、当投資信託への投資を行う予定です。

### 特別勘定のユニットプライスの推移

特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



ユニットプライス		騰落率(%)	
2013年3月末	88.16	過去1ヵ月	1.79
2012年12月末	83.40	過去3ヵ月	5.70
2012年9月末	79.86	過去6ヵ月	10.39
2012年6月末	80.60	過去1年	6.01
2012年3月末	83.16	過去3年	1.29
2011年12月末	79.45	設定来	▲ 11.84

### 特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額(千円)
利息配当金収入	5,214
有価証券売却益	-
有価証券評価益	181,351
有価証券償還益	-
為替差益	-
その他収益	-
有価証券売却損	-
有価証券評価損	▲ 9,127
有価証券償還損	-
為替差損	-
その他費用及び損失	6,028
収支差計	189,664

特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100.00として計算しています。

騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。

各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ(下記参照)、およびインターネット対応の携帯電話(<https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp>)にて各営業日にご確認いただくことができます。

### 特別勘定資産の内訳

項目	ライフ・ソリューション30	
	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	82,429	3.0
その他有価証券	2,703,524	97.0
合計	2,785,953	100.0

特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。

なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下に記載しております。

金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

## アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型(B) 適格機関投資家私募

[2013年3月 末日現在]

### 利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型(B) 適格機関投資家私募  
 【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社  
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の30%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

当投資信託は、主として

アクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募、  
 アクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募、  
 アクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募、  
 アクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募、  
 アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募  
 に投資します。

### 当投資信託の資産配分比率

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

	基本資産配分	LSF安定型
日本株式	24.00%	26.80%
米国株式	3.00%	4.02%
欧州株式	3.00%	3.56%
日本債券	30.00%	30.34%
短期金融資産等	40.00%	35.28%
合計	100.00%	100.00%

各資産の投資信託欄は、原則、当投資信託における各マザー・ファンド保有率を記載しております。

(短期金融資産等については、当投資信託で保有する現金等も含んでおります。)

### 当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF安定型	1.96%	6.17%	11.23%	7.44%	5.11%	1.20%
BM	1.60%	5.31%	9.45%	6.28%	5.03%	6.48%
差	0.36%	0.86%	1.79%	1.16%	0.08%	5.28%

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

「BM」とは、合成ベンチマークを指します。

合成ベンチマークの組合せの比率は以下のとおりです。

	投資信託
東証株価指数(TOPIX) <sup>1)</sup>	24.00%
S & P 500種株価指数 <sup>2)</sup> (為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)	3.00%
MSC:欧州株価指数 <sup>3)</sup> (為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)	3.00%
日興債券パフォーマンス・インデックス (総合 <sup>4)</sup> 、中期3年以上7年未満)	30.00%
日本円無担保コールオーバーナイト物レート <sup>5)</sup> により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したもの	40.00%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・5ページ～11ページに記載されている「\*1～\*7」の用語説明は、12ページに記載しています。

### 【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

# 変額個人年金保険 特別勘定の現況

(2012年4月～2013年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知ください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

## 特別勘定 ライフ・ソリューション50 [2013年3月 末日現在]

### 特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2012年度のユニットプライスの騰落率は+10.60%となりました。当期前半は、ギリシャのユーロ離脱の可能性やスペイン銀行の格下げなど、欧州債務問題が再燃したこと等を背景に世界的な景気低迷となりましたが、6月の再選挙でギリシャのユーロ離脱はひとまず回避され、また欧州安定メカニズム(E S M)の支援の合意などをを受け市場の緊張は緩和しました。日本では、11月の政権交代による安倍内閣の発足以降、株式市場は上昇、円安が進行しました。2013年に入り、米国では「財政の崖」がもたらす歳出削減や増税が回避されたことに加え雇用統計をはじめとする米国経済指標に改善がみられ、期末比でみると各国株式市場は上昇しました。利用する投資信託は、資産配分効果および銘柄選択の双方が奏功し、特に上昇した日本株式ファンドへの配分と銘柄選択がその牽引役となりました。今後も引き続き、当投資信託への投資を行う予定です。

### 特別勘定のユニットプライスの推移

特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



ライフ・ソリューション50			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2013年3月末	87.91	過去1ヵ月	3.00
2012年12月末	80.31	過去3ヵ月	9.46
2012年9月末	74.62	過去6ヵ月	17.80
2012年6月末	75.57	過去1年	10.60
2012年3月末	79.48	過去3年	4.91
2011年12月末	73.62	設定来	▲ 12.09

### 特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額(千円)
利息配当金収入	19,707
有価証券売却益	-
有価証券評価益	611,400
有価証券償還益	-
為替差益	-
その他収益	-
有価証券売却損	-
有価証券評価損	▲ 54,074
有価証券償還損	-
為替差損	-
その他費用及び損失	18,655
収支差計	666,526

特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100.00として計算しています。

騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。

各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ(下記参照)、およびインターネット対応の携帯電話(<https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp>)にて各営業日にご確認いただくことができます。

### 特別勘定資産の内訳

項目	ライフ・ソリューション50	
	金額(千円)	比率 (%)
現預金・その他	203,726	3.3
その他有価証券	6,023,880	96.7
合計	6,227,607	100.0

特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。

なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下に記載しております。

金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

## アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型(B) 適格機関投資家私募 [2013年3月 末日現在]

### 利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型(B) 適格機関投資家私募  
 【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社  
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の50%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

当投資信託は、主として  
 アクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募、  
 アクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募、  
 アクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募、  
 アクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募、  
 アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募  
 に投資します。

### 当投資信託の資産配分比率

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

	基本資産配分	LSF安定成長型
日本株式	40.00%	44.71%
米国株式	5.00%	5.89%
欧州株式	5.00%	5.98%
日本債券	25.00%	24.86%
短期金融資産等	25.00%	18.55%
合計	100.00%	100.00%

各資産の投資信託構成は、原則、当投資信託における各マザー・ファンド保有率を記載しております。  
 (短期金融資産等については、当投資信託で保有する現金等も含んでおります。)

### 当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF安定成長型	3.22%	10.03%	18.80%	12.18%	9.02%	0.46%
BM	2.66%	8.81%	15.95%	10.07%	6.78%	2.69%
差	0.55%	1.23%	2.85%	2.11%	2.24%	2.23%

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、合成ベンチマークを指します。

合成ベンチマークの組合せの比率は以下のとおりです。

	投資信託
東証株価指数(TOPIX) <sup>1)</sup>	40.00%
S & P 500種株価指数 <sup>2)</sup> (為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)	5.00%
M S C I欧州株価指数 <sup>3)</sup> (為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)	5.00%
日興債券パフォーマンス・インデックス (総合 <sup>4)</sup> 、中期3年以上7年未満)	25.00%
日本円無担保コールオーバーナイト物レート <sup>5)</sup> により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したもの	25.00%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・5ページ～11ページに記載されている「\*1～\*7」の用語説明は、12ページに記載しています。

### 【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

# 変額個人年金保険 特別勘定の現況

(2012年4月～2013年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知ください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

## 特別勘定 ライフ・ソリューション70 [2013年3月 末日現在]

### 特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2012年度のユニットプライスの騰落率は+14.45%となりました。当期前半は、ギリシャのユーロ離脱の可能性やスペイン銀行の格下げなど、欧州債務問題が再燃したこと等を背景に世界的な景気低迷となりましたが、6月の再選挙でギリシャのユーロ離脱はひとまず回避され、また欧州安定メカニズム(ESM)の支援の合意などを受け市場の緊張は緩和しました。日本では、11月の政権交代による安倍内閣の発足以降、株式市場は上昇、円安が進行しました。2013年に入り、米国では「財政の崖」がもたらす歳出削減や増税が回避されたことに加え雇用統計をはじめとする米国経済指標に改善がみられ、期末比でみると各国株式市場は上昇しました。利用する投資信託は、資産配分効果および銘柄選択の双方が奏功し、特に上昇した日本株式ファンドへの配分と銘柄選択がその牽引役となりました。今後も引き続き、当投資信託への投資を行う予定です。

### 特別勘定のユニットプライスの推移

特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



ライフ・ソリューション70			
	ユニットプライス	騰落率(%)	
2013年3月末	85.71	過去1ヵ月	4.10
2012年12月末	75.92	過去3ヵ月	12.88
2012年9月末	68.76	過去6ヵ月	24.65
2012年6月末	69.86	過去1年	14.45
2012年3月末	74.88	過去3年	7.49
2011年12月末	67.35	設定来	▲14.29

### 特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額(千円)
利息配当金収入	11,089
有価証券売却益	-
有価証券評価益	433,800
有価証券償還益	-
為替差益	-
その他収益	-
有価証券売却損	-
有価証券評価損	▲78,515
有価証券償還損	-
為替差損	-
その他費用及び損失	13,581
収支差計	509,824

特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100.00として計算しています。

騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。

各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ(下記参照)、およびインターネット対応の携帯電話(<https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp>)にて各営業日にご確認いただくことができます。

### 特別勘定資産の内訳

項目	ライフ・ソリューション70	
	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	111,862	3.0
その他有価証券	3,593,629	97.0
合計	3,705,492	100.0

特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。

なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下に記載しております。

金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

## アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型(B) 適格機関投資家私募

[2013年3月 末日現在]

### 利用する投資信託について

[投資信託名] アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型(B) 適格機関投資家私募

[委託会社] アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

### [運用方針]

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の70%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

当投資信託は、主として  
 アクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募、  
 アクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募、  
 アクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募、  
 アクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募、  
 アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募  
 に投資します。

### 当投資信託の資産配分比率

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

	基本資産配分	LSF成長型
日本株式	55.00%	59.83%
米国株式	7.50%	7.93%
欧州株式	7.50%	7.87%
日本債券	17.50%	17.27%
短期金融資産等	12.50%	7.10%
合計	100.00%	100.00%

各資産の投資信託欄は、原則、当投資信託における各マザー・ファンド保有率を記載しております。

(短期金融資産等については、当投資信託で保有する現金等も含んでおります。)

### 当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF成長型	4.36%	13.57%	25.83%	16.18%	11.72%	3.35%
BM	3.69%	12.25%	22.46%	13.75%	8.16%	1.87%
差	0.67%	1.32%	3.37%	2.42%	3.56%	1.48%

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

「BM」とは、合成ベンチマークを指します。

合成ベンチマークの組合せの比率は以下のとおりです。

	投資信託
東証株価指数(TOPIX) <sup>1)</sup>	55.00%
S&P500種株価指数 <sup>2)</sup> (為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)	7.50%
MSCI欧州株価指数 <sup>3)</sup> (為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)	7.50%
日興債券パフォーマンス・インデックス (総合 <sup>4)</sup> 、中期3年以上7年未満)	17.50%
日本円無担保コールオーバーナイト物レート <sup>5)</sup> により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したもの	12.50%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・5ページ～11ページに記載されている\*1～\*7の用語説明は、12ページに記載しています。

### [引受保険会社]

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

# 変額個人年金保険 特別勘定の現況

(2012年4月～2013年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

## 特別勘定 日本株式 [2013年3月 末日現在]

### 特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2012年度のユニットプライスの騰落率は+20.82%となりました。当期の日本株式市場は、前期末比で上昇となりました。利用する投資信託については、ベンチマーク比でプラスとなりました。主なプラス要因としては、当期の日本株式市場は株価を1株あたりの利益と比較したときに割安であった銘柄が相対的に上昇する基調にあり、これらの銘柄を多めに保有していたことや、業種別では上昇したREITや銀行を多めに保有していたこと、個別銘柄では上昇したイーアクセスを多めに保有していたことなどでした。今後も引き続き当投資信託への投資を行う予定です。

### 特別勘定のユニットプライスの推移

特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



日本株式			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2013年3月末	88.23	過去1ヵ月	7.08
2012年12月末	72.48	過去3ヵ月	21.73
2012年9月末	62.04	過去6ヵ月	42.20
2012年6月末	64.77	過去1年	20.82
2012年3月末	73.03	過去3年	7.03
2011年12月末	62.53	設定来	▲ 11.76

### 特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額(千円)
利息配当金収入	7
有価証券売却益	-
有価証券評価益	68,327
有価証券償還益	-
為替差益	-
その他収益	-
有価証券売却損	-
有価証券評価損	▲ 856,274
有価証券償還損	-
為替差損	-
その他費用及び損失	230,507
収支差計	694,102

特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100.00として計算しています。

騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。

各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ(下記参照)、およびインターネット対応の携帯電話(<https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp>)にて各営業日にご確認いただくことができます。

### 特別勘定資産の内訳

項目	日本株式	
	金額(千円)	比率 (%)
現預金・その他	120,951	3.2
その他有価証券	3,694,525	96.8
合計	3,815,477	100.0

特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。

なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下に記載しております。

金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

## アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B) 適格機関投資家私募

[2013年3月 末日現在]

### 利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B) 適格機関投資家私募

【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。

当投資信託は、主として  
アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

### 当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	7.47%	22.92%	44.25%	23.05%	11.83%	4.16%
BM	6.05%	20.34%	40.31%	21.11%	5.71%	19.75%
差	1.42%	2.57%	3.93%	1.94%	6.12%	23.91%

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。

ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)<sup>1)</sup>です。

### マザーファンド受益証券の詳細情報 組入上位10銘柄

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

順位	銘柄	業種	マザーファンド
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	4.85%
2	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	3.83%
3	本田技研工業	輸送用機器	3.13%
4	日本電信電話	情報・通信業	3.13%
5	KDDI	情報・通信業	2.97%
6	キヤノン	電気機器	2.90%
7	大塚ホールディングス	医薬品	2.73%
8	エヌ・ティ・ティ・ドコモ	情報・通信業	2.72%
9	日産自動車	輸送用機器	2.69%
10	東海旅客鉄道	陸運業	2.55%
合計			31.51%
組入銘柄数			112銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・5ページ～11ページに記載されている「\*1～\*7」の用語説明は、12ページに記載しています。

### 【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>



# 変額個人年金保険 特別勘定の現況

(2012年4月～2013年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

## 特別勘定 世界株式 [2013年3月 末日現在]

### 特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2012年度のユニットプライスの騰落率は+5.01%となりました。  
当期の世界の株式市場は、期初は欧州債務懸念などを背景に下落基調となったものの、2012年6月以降は、欧州当局による債務問題への取り組み、主要国・地域による追加金融緩和や景気刺激策への期待、良好な米中の経済指標などを背景に総じて堅調に推移しました。利用する投資信託のベンチマークとの比較では、セクター配分、銘柄選択共にマイナス要因となりました。セクター配分では、情報技術セクターを高めに入れていたことなどがマイナス要因となりました。銘柄選択では、情報技術セクターやエネルギーセクターにおける選択が主なマイナス要因となりました。今後も引き続き、当投資信託への投資を行う方針です。

### 特別勘定のユニットプライスの推移

特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



世界株式			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2013年3月末	82.62	過去1ヵ月	2.12
2012年12月末	77.13	過去3ヵ月	7.12
2012年9月末	77.11	過去6ヵ月	7.15
2012年6月末	70.18	過去1年	5.01
2012年3月末	78.68	過去3年	9.61
2011年12月末	68.88	設定来	▲17.37

### 特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額(千円)
利息配当金収入	5,986
有価証券売却益	-
有価証券評価益	137,409
有価証券償還益 為替差益	-
その他収益	-
有価証券売却損	-
有価証券評価損	-
有価証券償還損 為替差損	-
その他費用及び損失	4,992
収支差計	138,403

特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100.00として計算しています。

騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。

各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ(下記参照)、およびインターネット対応の携帯電話(<https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp>)にて各営業日にご確認くださいことができます。

### 特別勘定資産の内訳

項目	世界株式	
	金額(千円)	比率 (%)
現預金・その他	76,996	3.3
その他有価証券	2,237,753	96.7
合計	2,314,749	100.0

特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。

なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下に記載しております。

金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

## 適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズH(為替ヘッジあり)

[2013年3月 末日現在]

### 利用する投資信託について

【投資信託名】 適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース  
・オポチュニティーズH(為替ヘッジあり)  
【委託会社】 アライアンス・バーンスタイン株式会社  
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国(日本を含む)の株式を投資対象に成長の可能性が高いと判断される「セクター」の中から、成長性が高いと思われる銘柄に投資し、信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

当投資信託は、主としてアライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ・マザーファンド受益証券に投資します。

### 当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	2.29%	7.55%	7.88%	6.34%	13.87%	▲4.94%
BM	2.82%	8.03%	9.92%	12.90%	29.06%	28.17%
差	▲0.52%	▲0.49%	▲2.04%	▲6.56%	▲15.19%	▲33.11%

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、

MSCIワールド・インデックス<sup>®</sup>(税引前配当金込/為替ヘッジあり/円ベース)です。

### マザーファンド受益証券の詳細情報 組入上位10銘柄

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

順位	銘柄	国名	セクター	業態	マザーファンド
1	ロシュ・ホールディング	スイス	ヘルスケア	医薬品	2.88%
2	アップル	アメリカ	情報技術	コンピュータ	2.81%
3	ブリティッシュ・アメリカン・タバコ	イギリス	生活必需品	タバコ	2.75%
4	ダナハー	アメリカ	資本財・サービス	コングロメリット	2.54%
5	アンハイザー・ブッシュ・インベブ	ベルギー	生活必需品	飲料	2.46%
6	パートナーズ・グループ・ホールディング	スイス	金融	資本市場	2.24%
7	ネスレ	スイス	生活必需品	食品	2.18%
8	ウォルト・ディズニー	アメリカ	一般消費財・サービス	メディア	1.93%
9	グーグル	アメリカ	情報技術	ソフトウェア・サービス	1.84%
10	イーベイ	アメリカ	情報技術	ソフトウェア・サービス	1.81%
合計					23.43%
組入銘柄数					98銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・5ページ～11ページに記載されている「\*1～\*7」の用語説明は、12ページに記載しています。

### 【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

# 変額個人年金保険 特別勘定の現況

(2012年4月～2013年3月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

## 特別勘定 世界債券 [2013年3月 末日現在]

### 特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2012年度のユニットプライスの騰落率は+15.19%となりました。当投資信託では、年度を通じて参考指標に比べ投資適格社債の組入れを多めとし、商業用不動産担保証券(CMBS)やカバードボンドをやや多めに配分しました。社債セクターは堅調に推移したため、セクター配分はプラスに寄りました。国別配分では日本およびユーロ圏周縁国の組入れを少なめとしました。欧州経済が直面する課題や、中国の経済指標が成長減速を示唆していること、米国の歳出強制削減が景気回復を遅らせる可能性はありますが、世界の中央銀行は少なくとも2013年の年末までは積極的な金融緩和と政策を継続し、2013年の世界経済は緩やかに回復に向かうと予想しています。今後も引き続き、当投資信託への投資を行う方針です。

### 特別勘定のユニットプライスの推移

特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



世界債券			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2013年3月末	116.31	過去1ヵ月	1.72
2012年12月末	107.43	過去3ヵ月	8.26
2012年9月末	96.30	過去6ヵ月	20.78
2012年6月末	97.51	過去1年	15.19
2012年3月末	100.97	過去3年	8.04
2011年12月末	94.33	設定来	16.31

### 特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額(千円)
利息配当金収入	91,190
有価証券売却益	-
有価証券評価益	-
有価証券償還益	-
為替差益	-
その他収益	-
有価証券売却損	74,749
有価証券評価損	▲349,504
有価証券償還損	-
為替差損	-
その他費用及び損失	-
収支差計	365,945

特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100.00として計算しています。

騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。

各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ(下記参照)、およびインターネット対応の携帯電話(<https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp>)にて各営業日にご確認いただくことができます。

### 特別勘定資産の内訳

項目	世界債券	
	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	97,752	3.9
その他有価証券	2,422,357	96.1
合計	2,520,110	100.0

特別勘定で利用している外国投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。

なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下に記載しております。

金額の単位未満は四捨五入としました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

## アライアンス・バーンスタイン グローバル・ボンド・ポートフォリオ(クラスS1受益証券)

[2013年3月 末日現在]

### 利用する投資信託について

【投資信託名】 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ポートフォリオ(クラスS1受益証券)  
 【委託会社】 アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー  
 【運用方針】

主として多種通貨建の投資適格格付確定利付証券に投資し、利息、配当収益、割引債券における償還差益および元本の変動等をもって、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。原則として、投資信託の総資産の70%以上を米ドル建ての証券または米ドルをヘッジする証券に投資します。

当投資信託は、米ドル建ルクセンブルグ籍外国投資信託です。  
 (注)投資信託の運用方針が変更されたため、2012年12月14日付けで、運用方針が同じであり、また運用関係費が従来より低い投資信託に変更いたしました。  
 (詳細は3ページをご覧ください)

### 当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.23%	0.14%	0.39%	2.09%	10.74%	127.53%
BM	0.52%	0.57%	1.47%	5.05%	15.27%	149.30%
差	▲0.29%	▲0.43%	▲1.08%	▲2.96%	▲4.53%	▲21.77%

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(1996年11月20日)を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、パークレイズ・グローバル総合インデックス<sup>7)</sup>です。

### 当投資信託の詳細情報 組入上位10債券種類

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

順位	銘柄	国名	格付		投資信託
			ムーディーズ	S&P	
1	アメリカ国債(2/15/15)	アメリカ	Aaa	AA+	6.76%
2	オランダ国債(7/15/13)	オランダ	Aaa	AAA	6.68%
3	アメリカ国債(5/15/18)	アメリカ	Aaa	AA+	4.31%
4	カナダ国債(6/1/15)	カナダ	Aaa	AAA	4.16%
5	アメリカ国債(5/15/17-8/15/20)	アメリカ	Aaa	AA+	3.86%
6	カナダ国債(3/15/14)	カナダ	Aaa	AAA	3.57%
7	メキシコ国債(6/20/13)	メキシコ	Baa1	A-	3.39%
8	日本国債(3/21/16)	日本	Aa3	AA-	3.03%
9	ドイツインフレ連動債(4/15/13)	ドイツ	Aaa	AAA	2.86%
10	ニュージーランド国債(12/15/17)	ニュージーランド	Aaa	AA+	2.57%
合計					41.19%

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・5ページ～11ページに記載されている「\*1～\*7」の用語説明は、12ページに記載しています。

### 【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

# 変額個人年金保険

## 特別勘定の現況

(2012年4月～2013年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

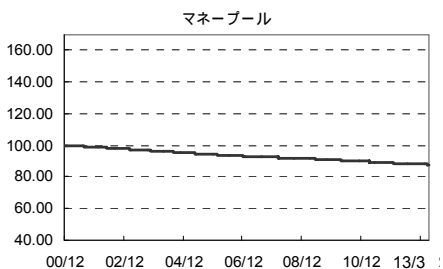
### 特別勘定 マネープール [2013年3月 末日現在]

#### 特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

2012年度のユニットプライスの騰落率は、0.88%となりました。  
 当期中前半はギリシャのユーロ離脱の可能性やスペイン銀行の格下げなどで欧州債務問題が再燃したこと等を背景に世界的な景気低迷となりましたが、6月の再選挙でギリシャのユーロ離脱はひとまず回避、また欧州安定メカニズム(ESM)の支援の合意を受け市場の緊張が緩和しました。日本では、11月の政権交代による安倍内閣発足以降、株式市場は上昇、円安が進行し、国債は売られ、利回りは上昇基調となりました。2013年に入ると日銀の人事交代や環太平洋経済連携協定(TPP)交渉参加の可能性が高まったことから更に株高・円安が進行しました。利用する投資信託では、サムライ債への運用成果が良好だったことなどがプラス要因となり、年間を通してみると、利用する投資信託はベンチマークを上回る結果となりました。今後も引き続き、当投資信託への投資を行う予定です。

#### 特別勘定のユニットプライスの推移

特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



金融市場型			
ユニットプライス		騰落率(%)	
2013年3月末	87.84	過去1ヵ月	▲ 0.08
2012年12月末	88.04	過去3ヵ月	▲ 0.22
2012年9月末	88.25	過去6ヵ月	▲ 0.47
2012年6月末	88.44	過去1年	▲ 0.88
2012年3月末	88.62	過去3年	▲ 2.99
2011年12月末	88.80	設定来	▲ 12.16

#### 特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額(千円)
利息配当金収入	1,025
有価証券売却益	-
有価証券評価益	134
有価証券償還益	-
為替差益	-
その他収益	-
有価証券売却損	-
有価証券評価損	-
有価証券償還損	-
為替差損	-
その他費用及び損失	-
収支差計	1,160

特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100.00として計算しています。

騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。

各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ(下記参照)、およびインターネット対応の携帯電話(<https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp>)にて各営業日にご確認ください。

#### 特別勘定資産の内訳

項目	金融市場型	
	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	32,868	9.6
その他有価証券	311,157	90.4
合計	344,025	100.0

特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。

なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下に記載しております。

金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

### アクサ ロ - ゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド(B) 適格機関投資家私募

[2013年3月 末日現在]

#### 利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ロ - ゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド(B) 適格機関投資家私募

【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保をめざします。

当投資信託は、主としてアクサ ロ - ゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

#### 当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.02%	0.08%	0.15%	0.34%	0.64%	2.02%
BM	0.01%	0.02%	0.04%	0.08%	0.25%	1.52%
差	0.01%	0.06%	0.11%	0.26%	0.39%	0.50%

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、

日本円無担保コールオーバーナイト物レート<sup>5)</sup>により

日々運用したときに得られる投資収益を指数化したものです。

#### マザーファンド受益証券の詳細情報

資産構成	修正デュレーション	マザーファンド
公社債	0.88年	44.69%
短期資産等	0.35年	55.31%
合計		100.00%

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を

示す指標として用いられ金利の変化に対する

債券価格の変動率を示します。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・5ページ～11ページに記載されている「\*1～\*7」の用語説明は、12ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

# 変額個人年金保険

## 用語説明

- \*1 「東証株価指数(TOPIX)」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。  
東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所(以下東京証券取引所)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は東京証券取引所が有しています。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- \*2 「S&P500種株価指数」とは、スタンダード&プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード&プアーズ社に帰属しています。S&P500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、S&P500種株価指数(米ドルベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
- \*3 「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc.の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、MSCI欧州株価指数(ユーロベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
- \*4 「日興債券パフォーマンス・インデックス(総合)」とは、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社が発表している、日本の債券市場の動きを表す指数です。国債、地方債、政府保証債、財投機関債、金融債、事業債などの円建て公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存年数1年以上、残存額面10億円以上で、格付機関からBBB格相当以上の格付を取得している発行体に限られます。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はSMBC日興証券株式会社に帰属します。また、SMBC日興証券株式会社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- \*5 「日本円無担保コールオーバーナイト物レート」について、コール市場とは、民間金融機関が短期的な手元資金の余剰や不足を調整するための市場をいいます。このコール市場において、金融機関間で、担保なしで、翌日に返済することを条件に、短期の資金を貸し、借りする取引に適用される金利を「無担保コールオーバーナイト物レート」といいます。
- \*6 「MSCIワールド・インデックス」とは、MSCI Inc.が世界の先進国株式市場のパフォーマンスを測るために開発した指数で、各国の株式時価総額等をベースに算出されたものです。MSCIワールド・インデックスに関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCIワールド・インデックス(税引前配当金込/為替ヘッジあり/円ベース)は、MSCIワールド・インデックス(米ドルベース)をもとに、為替ヘッジにかかる費用相当分を考慮して委託会社が円ヘッジベースに換算したものです。
- \*7 「パークレイズ・グローバル総合インデックス」は、パークレイズ・バンク・ビーエルシーおよび関連会社(パークレイズ)が開発、算出、公表を行うインデックスであり、世界の投資適格債券市場のパフォーマンスをあらわします。当該インデックスに関する知的財産権およびその他の一切の権利はパークレイズに帰属します。

# 変額個人年金保険のリスク及び諸費用について

## 【投資リスクについて】

この保険は積立金額および年金額等が特別勘定資産の運用実績に応じて変動(増減)するしくみの変額個人年金保険です。特別勘定資産の運用は、主として国内外の株式および公社債を主要投資対象とする投資信託を利用して運用され、株式および公社債の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあります。特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、このリスクはご契約者に帰属し、ご契約者が損失を被ることがあります。運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払い戻し金額等が一時払保険料等を下回る場合があります。特別勘定における資産運用の結果がご契約者の期待通りでなかった場合でも、当社または第三者がご契約者に何らかの補償・補填をすることはありません。

## 【諸費用について】

ご契約者などにご負担いただくこの保険の諸費用は、次のとおりです。

### <年金支払開始日前>

特別勘定のユニットプライス(単位価格)を計算する前にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
契約初期費用 (増額費用)	特別勘定繰入前	保険料の <b>2.0%</b>	保険料から契約初期費用として2.0%が控除された後の金額が積立金として特別勘定で運用されます。 (増額費用も同じ)
保険契約管理費 (積立金比例額)	毎日	特別勘定の積立金総額に対して <b>年率1.2%</b>	当社の経費に充当されます。 (基本保険金額を死亡時に最低保証するための費用および災害死亡保険金のための費用を含みます。)

\* 毎日その日の始めの特別勘定の積立金総額に年率1.2%の365分の1を乗じた金額を毎日その日の終わりの特別勘定の積立金総額から控除します。

ご契約の内容と取引の内容による費用

特別勘定のユニットプライス(単位価格)を計算した後にご負担いただく費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
保険契約管理費 (件数比例額)	月単位の契約応当日	毎月 <b>100円</b>	契約1件あたり毎月の契約応当日の前日の積立金の合計額から控除します。
積立金移転費用	移転時	<書面による移転申込みの場合> 1回目 <b>1,500円</b> 2回目以降は1回につき <b>2,300円</b> <sup>(*)</sup>	毎回の移転について積立金から控除します。
		<インターネットによる移転申込みの場合> 月1回の積立金の移転は <b>無料</b> 2回目からは1回につき <b>800円</b> <sup>(*)</sup>	1ヵ月に2回以上積立金の移転を行なう場合、2回目からの移転について積立金から控除します。
貸付利息	月単位の契約応当日 および 貸付金の返済時	貸付金額の年利 <b>1.2%</b>	貸付金制度を利用されたとき、月単位の契約応当日および貸付金の返済時に、積立金から徴収します。

13ページ【変額個人年金保険のリスク及び諸費用について】へ続きます。

## 変額個人年金保険のリスク及び諸費用について

解約控除	解約時	積立金額の 8.0%～0.8%	解約日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数(1年未満切り上げ)に応じて、積立金額に対して解約控除率(8%から0.8%)を乗じた金額を積立金額から控除します。
	減額時	減額に相当する積立金額の 8.0%～0.8%	減額日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数(1年未満切り上げ)に応じて、減額に相当する積立金額に対して解約控除率(8%から0.8%)を乗じた金額を減額に相当する積立金額から控除します。

(\*1) 月単位の契約応当日から翌月の契約応当日の前日までに積立金移転を行なった回数  
貸付制度は、ご契約が成立後、会社の定める範囲内で何回でも貸付を受けることができます。  
将来、上記の内容が変更になることがあります。

その他間接的にご契約者にご負担いただく運用関係の費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
運用関係費	毎日	ライフ・ソリューション30 年率0.945%程度(税抜0.900%程度)	特別勘定が利用する投資信託の純資産額に対して控除いたします。
		ライフ・ソリューション50 年率1.050%程度(税抜1.000%程度)	
		ライフ・ソリューション70 年率1.155%程度(税抜1.100%程度)	
		日本株式 年率0.840%程度(税抜0.800%程度)	
		世界株式 年率0.8925%程度(税抜0.850%程度)	
		世界債券 年率0.460%程度 <sup>*1*3</sup>	
		マネーボール 年率0.034125%～年率0.483000%程度 (税抜0.0325%～0.4600%程度) <sup>*2</sup>	

運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。

信託報酬の他、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料及び消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、これらの諸費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。また、各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの諸費用を間接的に負担することとなります。

これらの運用関係費は、運用手法の変更・運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

\*1 世界債券のみ、ルクセンブルグ籍の投資信託を使用しているため、管理報酬等を記載しております。

管理報酬等には、予め定率として決められている管理報酬および管理会社報酬が含まれます。

その他、お客様にご負担いただく手数料には、保管報酬、管理事務代行報酬、名義書換代行報酬、ルクセンブルグ大公国の法令に基づく税金等、有価証券の売買手数料、保有する有価証券の譲渡・償還益および配当やクーポンに対する源泉徴収税等の諸費用がかかりますが、運用資産額の取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。

\*2 マネーボールの運用関係費は、各月の前月最終5営業日における無担保コールオーバーナイト物レートの平均値に応じて毎月見直されます。

\*3 当特別勘定で利用する投資信託の運用方針が変更されたため、2012年12月14日付で、投資信託を変更いたしました。

これに伴い、運用関係費が変更となりました。

(詳細は3ページをご覧ください)

### <年金支払開始日以後>

年金支払開始日以後にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
年金管理費	年単位の 契約応当日	支払年金額の1.0%	年金支払開始日以後、年単位の契約応当日に責任準備金から控除されます。

年金管理費は、将来変更となる可能性があります。

[引受保険会社]

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>